

施政方針

においては、災害に強い港湾として新漁港区を継続整備し埋立地の利用方法については今後検討していく予定であります。

近海資源対策

近海資源の減少対策として、大型魚礁やヤリイカ産卵礁の継続、また、回帰性魚のサクラムスの放流、さらに磯根資源の好環境づくりを目指し「離島漁業再生支援交付金事業」や「ナマコ資源増大対策事業」の活用を求めながら種苗を放流して、島のつくり育てる漁業を積極的に推進することとします。

また、あわび販売につきましては、観光客等に青苗漁港の養殖生簀を利用した「アワビ狩り体験」を実施し、漁業者が耐震岸壁完成後の利用に向けて積極的に取り組めるよう対応していきます。

「あわび種育苗センター」の運営計画については施設本来の目的である漁業者への健康苗供給と安定生産に努めます。

▲米岡地区の水田



農業の振興

農業振興について申し上げます。

本町における農業は、水田を中心に農業経営が行われておりますが、現在農業者は高齢化が進み耕作面積は年々減少傾向にあるなど多くの課題を抱えております。

このような中、農業経営として、おいしい「米づくり」と早期出荷の「アスパラガス栽培」等に活路を見いだそうと努力しており、米についても「ふつくりんこ」など新たな品種の作付けを実施しております。

また、農業法人が建設しました、「奥尻ワイナリー」から本年4月10日に、初めて「奥尻ワイン」が販売され、すでに白ワインについては完売との情報も得ております。今後は、ワインの原料となる醸造用ブドウの安定収量を確保するため、技術指導機関との連携を支援していきたいと思っております。

転作田の有効活用

転作田を有効活用としての「立茎アスパラ」については、土壌改良の時期がきておりますことから、計画土壌改良を進め、地域振興作物としての品質の向上を目指し、イベント等での販売を積極的に実施し、「地産地消」運動を積極的に展開します。

さらに、「奥尻和牛」のブランド化を目標に建設いたしました肥育牛舎等を活用しての飼育頭数の拡大を図るとともに、国営草地の一部を「キカラシ」という土壌を肥沃にする花を植えて花畑の利活用に取り組んでいきます。

林業の振興

林業関係について申し上げます。

日本海沿岸では、豊かな海づくりを目指し「日本海グリーンベルト構想」を推進し、山の森づくりを進めております。

本町においても本構想に積極的に参画し、森林を守るため植樹、下刈り、間伐事業等を継続実施してまいります。

さらに、緑豊かな島のブナ林を始めとした広葉樹の保存。

また、「魚つきの森」、「復興の森」における森林空間の保全、桜木ロードの維持・保全に努めます。

6月20日には、本町のブナ



▲「復興の森」の散策路

林等自然を生かした「貴重な自然資源で生き抜く島丈（しまたけ）新観光」と題して「MORIMORINETTOWER」によるフォーラムが開催されます。

商工・観光振興

商工・観光振興について申し上げます。

島内商工業者は消費の落ち込みや、町外への購買流失が続き、非常に厳しい状況であります。

これらを打開するために、商品券の購買拡大や島内消費の工夫に努め足腰の強い事業者の育成と、商工業全体の経営安定のため、奥尻商工会への運営費助成事業を実施いたします。

基本的には「地域再生チャレンジ交付金」を継続実施し「奥尻島地域再生プロジェクト推進会議」で決定された事業の積極的展開を図ります。

また、奥尻島観光協会に対しましては「ふるさと雇用再生特別交付金」等を活用し、観光協会の体制を強化し、

「観光客倍増プロジェクト事業」や観光振興のための運営費助成事業として本年度も助成を実施し、観光協会が今後自主自立できるような支援してまいります。

「奥尻島復興キャンペーン事業」については、今年度も7月と8月において昨年度より助成率を減額して実施し、来年度以降の事業見直し等について早期に結論を出す考えであります。

奥尻島の「三大祭り」についても可能な限り「町民参加型」、「町民主体」の祭りとして実施できるよう協力してまいります。

福祉・保健・衛生

福祉、保健、衛生について申し上げます。

住み慣れた地域で安心して暮らせる環境を実現するためには、行政だけでなく、町内会や社会福祉協議会などの連携は必要不可欠であり、援助を必要とする人々を地域全体で支えることが重要であります。

「安心して子供を生み育てる環境」、「高齢者を見守り、支え合う環境」このような環境づくり及び機能の向上に一層努めてまいります。

なお、「次世代育成支援推進行動計画」は今年度が最終年度となるため、本年度中に計画策定に向けてアンケート調査を実施し、「少子化対策」、「子育て支援」など多様化するニーズにどう応えていくか、更なる充実した計画づくりに着手してまいります。

本町において、高齢者のための福祉施設は、特別養護老人ホーム「おくしり荘」と高齢者生活福祉センターのみであります。

高齢者が安心して余生を送ることが出来るよう、高齢者のニーズにあつた福祉施設の設置に向けて検討してまいります。

介護保険においても「第4期介護保険事業計画」が策定され平成23年度までの方向が示され「介護予防プラン」、「地域ケア」など地域におけるネットワークの構築を強力

に実践していく考えであります。

また、保健指導においても従来の「住民健診」に替わり、昨年度から実施することになりました「特定健診」については、昨年度受診率が国保加入者の31・7%にとどまっております、今年度は受診の周知を徹底し受診率の向上に努めます。

新型インフルエンザ予防対策として、5月27日に町内の団体・機関に通知し、「新型インフルエンザ予防対策連絡会議」を開催し、町ぐるみで予防対策に取り組む体制であります。

環境・衛生

環境・衛生についてであります。

平成16年から稼動している「ゴミの焼却施設」においては、各部門における部品の交換や補修等の維持管理費が多額となつてきております。

また、ゴミの減量化を推進するためには、「ごみの分別」や「大型ごみの不法投棄」、



▲今年4月のクリーンアップ作戦で集められたゴミの一部（賽の河原海岸）

「空き缶のポイ捨て」等の周知徹底が必要であります。

「し尿処理施設」や青苗の「生活排水処理施設」は老朽化が著しく、計画的な改修及び終末処理場への移管など今後において検討を要するものと考えております。

町の医療

病院についてであります。昨年、総務省が公表したガイドラインに基づき「奥尻町国民健康保険病院改革プラン」を策定しました。

その中で「経営効率化」等の項目においても「目標達成のための具体的な取り組み」で今までの計画にない具体的

な数値や項目を設定し、今後見直しや評価の中で国保病院として果たすべき役割と目指す病院の姿を考慮してまいります。

しかしながら、慢性的な「医師」や「医療スタッフ」の不足は本町においては長年の命題でもあります。

これらを解消するために、あらゆる手段をもって積極的な行動をとっていく所存であります。

おわりに...

今、かつて経験をしたことのない経済危機と社会変動の真つただ中にもかかわらず創意工夫によって活路を見出すため、この厳しい時代を前向きに捉え、しっかりと地に足をつけて勇気をもって決断し、行動することが私に課せられた使命と考え町民が安心して暮らせる「まちづくり」に全力をあげて取り組んでまいります。

最後になりましたが、町民みなさまのご理解とご支援を改めてお願い申し上げます。